

2020年9・10月号

特集：光通信に AI?!

人工知能の言葉が世の中をにぎわせるようになったが、その実現手段である機械学習の性能向上が背景にある。光通信の技術においてもその活用は例に漏れず、主に故障の事前予想・波長リソース割り当て（メトロ・コア・アクセスネットワーク）の高効率化、および光ファイバー伝送歪みの補償性能向上を目指して検討が行われるようになってきた。その開発動向を知ることを通して、機械学習の光通信における有用性と今後の動向についての一考としたい。

	タイトル	執筆者
1	特集にあたって	O plus E 編集部
2	AI 技術を用いた光ネットワークの物理層モニタリング技術	富士通株式会社
3	ニューラルネットワーク適用による光ネットワークのリアルタイム診断技術	東京電機大学
4	AI を用いたサービス機能チェーン自動資源制御技術	情報通信研究機構
5	光信号の非線形歪補償へのニューラルネットワーク導入効果	明治大学
6	固有値伝送信号のニューラルネットワークによる復調性能改善	大阪大学
7	ニューラルネットワークを用いたナノ光回路設計	三菱電機株式会社
8	シリコン光回路を用いた深層学習応用	東京大学

※特集予定は都合により変更になる場合があります。